

第6学年 体育科学習指導案

日 時 平成20年7月4日(金) 5校時
学 級 6年2組 男子 12名 女子 11名
指導者 奥 山 実

1 単元名 器械運動 (マット運動)

2 単元の目標

- できない技ができるようになったり、友達と動きを合わせたりする喜びを味わうとともに、一人一人の子どもがかかわり合って学習する楽しさやマット運動のもつ楽しさを体感することができる。(関心・意欲・態度)
- 自己の能力に適した技や運動を選び、その技に適した練習の場や仕方を選んだり、友達と動きを合わせたりすることができる。(思考・判断)
- 今できる技を安定した動作で行うことができる。また、腕支持感覚、逆さ感覚等の器械運動に必要な力を高めることができる。(技能)

3 単元について

(1) 教材について

器械運動はマット、跳び箱、鉄棒を使った「技」に取り組んだり、それらの技ができるようになったりしたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、よりダイナミックで美しい動きができるようになる楽しさや喜びを味わえる運動でもある。

マット運動は、一人一人が自分のできる技を組み合わせることで自分の連続技として組み立てて行くことが可能である。また、回転したり、バランスをとったりするなど、技を完成させるまでに多くの運動が必要であり、リズム感、腕支持感覚、ジャンプ力、体重移動感覚、突き放し感覚、逆さ感覚を身につける上でも有効な運動でもある。できそうな技に挑戦させる中で、これらの運動感覚を数多く体験させることでマット運動の楽しさを味わうことができる。

(2) 児童について

児童は5年生の時にマット運動を経験し、それなりの連続技ができるようになってきている。

6年生になり、運動会で組体操を経験し、手支持の大切さや集団で何かを作り上げることに興味をもち始めている。

事前に児童に対して次のようにアンケートをとってみた。結果は下のとおりである。

Q1 あなたは、体育が好きですか。	はい 68%	いいえ 32%
Q2 マット運動は好きですか。	はい 68%	いいえ 32%
Q3 ダンス(表現)は好きですか。	はい 27%	いいえ 73%
Q4 組み体操は、好きですか。	はい 100%	いいえ 0%
Q5 どうしたらマット運動が楽しくできるでしょうか		

- ・協力して練習する(複数回答)
- ・仲良く練習する(複数回答)
- ・好きな人と練習する(複数回答)
- ・きちんとする
- ・けがをしないようにする
- ・はじめからできないと言わない
- ・発表会まで技を磨く
- ・新しい技を覚える

・運動が苦手

・体を動かすのがいやだ

・技ができない

4 指導計画

	1	2	3	4	5	6	7本時	8	
0	集合・あいさつ・健康観察・準備運動								
オリエンテーション 学習内容や進め方を知る （単元内容の流れ） 技の確認 評価の仕方を知る 学習カードの記入方法を 知る 技の確認 4 5		<p style="text-align: center;">体ほぐしの運動</p>							
	めあて1	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">今できる技をより磨いたり、組み合わせたりして楽しむ。</p>				めあて1	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">練習の仕方を工夫して自分の今できる技を高める。</p>		
	めあて2	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">練習の仕方を工夫して、できそうな技に挑戦する。</p>				めあて2	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">友達と動きを合わせて集団マットに挑戦して楽しむ。</p>		
		<p>前転系 1</p> <p>前転 開脚前転 跳び前転 倒立前転 <u>ハンスプリング</u> <u>アラビア跳び</u></p>	<p>後転系 2</p> <p>後転 開脚後転 <u>伸膝後転</u> <u>後転倒立</u></p>				・連続技の動きの確認 ・単技のポイント確認 ・友達とアドバイスし合う ・教師からのアドバイス *グルーブを決める *できる技確認 (前転系、後転系、バランス系、側転系) ・フォーメーションを考える ・組み合わせ技を考える ① 個人でやるのか ② 集団でやるのか ③ どんな技を組み合わせるのか ④ 技と技のつなぎをどうするか ⑤ マットの位置をどうするか ⑥ 息を合わせて演技するにはどうするか	発表会をする	
		<p>バランス系 3</p> <p>Y字バランス T字バランス V字バランス 倒立</p>		<p>側転系 4</p> <p><u>側方倒立回</u> <u>転</u> <u>ロンダート</u> <u>側転</u></p>					
		*技と技のつなぎ方なども練習する							
		まとめ・整理体操・次時の予告・後片付け							

5 前時までの指導の概要

オリエンテーションでは、技の確認を行ったが、5年生の時よりできるようになっていた。

これは春に行った運動会での組体操において技に対する基礎ができるようになったからと考えられる。特に逆さ感覚と手支持は、全員が体験し、自信をもってできるようになった。

全8時間のうち4時間目までは、単技を中心に新しい技の習得と技を高めることに重きを置くこととした。

*技を高めるとは・・・今までよりもダイナミック（大きく）にできるように着地や姿勢を含め見直してみることである。

2時間目・・・前転系を中心とした技の確認と新しい技の習得

3時間目・・・後転系を中心とした技の確認と新しい技の習得

4時間目・・・側転系・バランスを中心とした確認と新しい技の習得

新しい技の習得のため学習カードを使って技のポイントを確認した。そのほかは、教師からのアドバイスや友達同士のアドバイスによってかなり上達した。

5時間目・・・集団作りと技の確認・フォーメーションの確認

6時間目・・・集団作りと技の確認・フォーメーションの確認

5時間目からは、集団でマットを行うための組み合わせや、フォーメーションを考えさせた。

6 本授業実施に当たっての単元レベルでの改善目標

マット運動では、得意、不得意がはっきりしている。そこで不得意な児童でも、自分は今ここまでできた、できるかもしれないという思いをもたせ、みんなで挑戦することの楽しさを味わわせたい。

本時の学習では、一人一人が自分のできる技を高めながら連続技として完成させていく。そして、その技を生かしながらグループで取り組み、息を合わせて演技するような活動に発展させていくことにした。そうすることで、これまで体験してきたマット運動とはひと味違う楽しみを味わうことができると考える。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 仲間と協力して教え合ったり、励まし合ったりしながら集団マット運動を楽しむことができる。
- ・ 自分に合っためあてをもち、練習することができる。

(2) 本時の展開

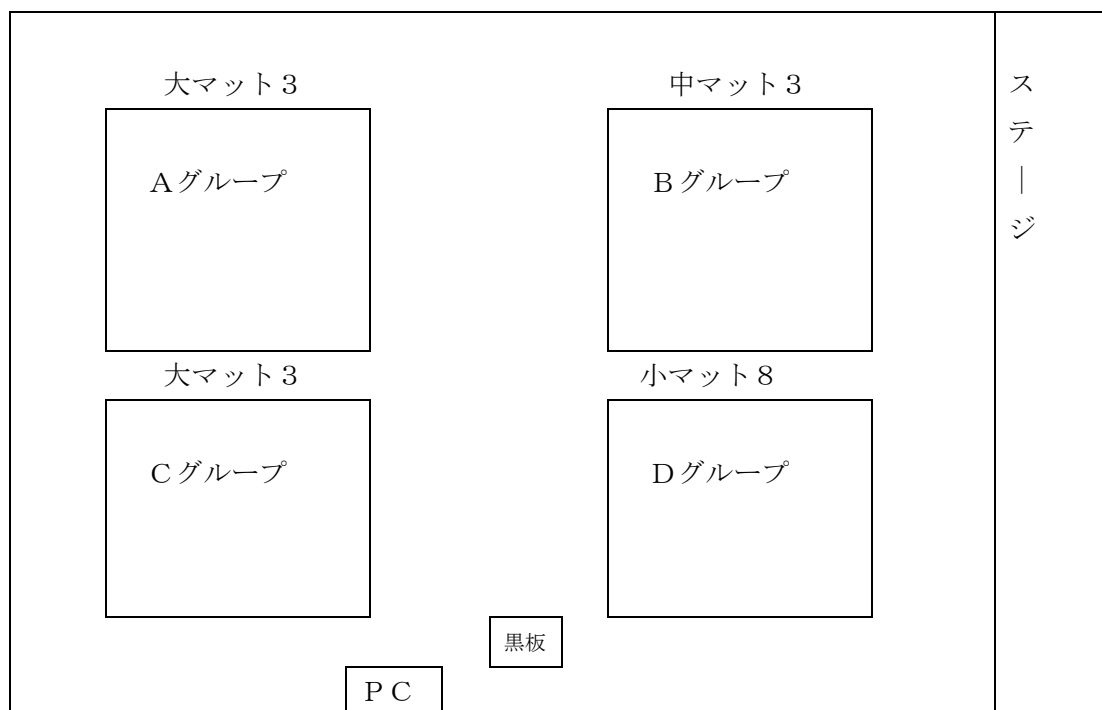
段階	指導内容	学 習 活 動	留意事項と評価項目
10	1. あいさつ 2. 準備運動 補助運動 3. 学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気よくあいさつさせる ・ 健康観察、安全確認 ・ 体操をする ・ 体ほぐしや補助運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マット運動につながる準備運動を行う。
		<p>めあて1</p> <p>練習の仕方を工夫して自分の今できる技のできばえを高める。</p>	
展開 ①	4. 動きの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人のめあてを発表させる * 必ず前転系、後転系、バランス、側転系、を個人技として入れる ・ 場を選択して練習を行う <ul style="list-style-type: none"> * 連続技の確認 * 単技の確認 	<p>〔関心・意欲・態度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のめあてに向かって練習をしているか。 (各練習場所に行き、動きの確認をする。)

10		<ul style="list-style-type: none"> *つなぎ技の確認 *バランスの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が得意な技や苦手な技など今日の発表会に向けて練習する。 [努力を要する子どもに対する配慮事項] ・技のポイントの確認をさせ、(パソコン・スモールステップカード等) 個人だけでなく児童同士のアドバイスを心がけるよう促す。
展開②	5. めあての確認	<p>めあて2</p> <p>友達と動きを合わせて集団マットに挑戦して楽しむ。</p>	
20	6. 発表会に向けた練習	<ul style="list-style-type: none"> ・班のめあて発表 ・発表会に向けて練習をする ・班内でのプレ発表をする 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>仲間と協力して集団マットを楽しむことができているか(観察・カード)</p> <p>[配慮事項]</p> <p>班の中で励まし合ったり、アドバイスができるように促す。</p>
終末	7. 整理体操	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの有無を確認する 	
	8. 学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・集団マット運動発表会に向けて感想を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな発表会にしたいのか。 ・どんなところに気をつけるのか。(具体的に発表させる)
5	9. あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつする 	

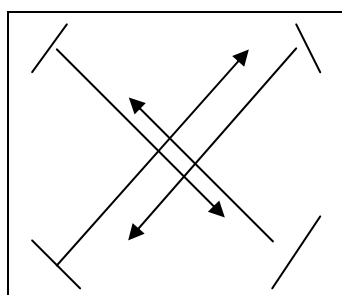
(3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

具体的評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	努力を要する生徒への手だて
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して教え合ったり、励まし合ったりしながら集団マット運動を楽しむことができる。 ・自分のめあてに向かって練習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して集団マットを楽しむことができる。 ・自分のめあてに向かって練習しようとしている。 	<p>今できる技をできる範囲内で挑戦させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてをたて、練習の場を選ばせる。

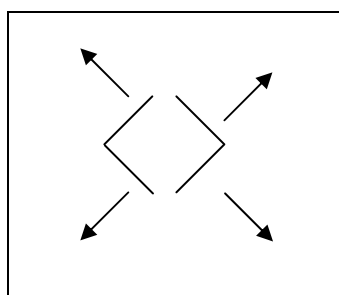
[場の設定]



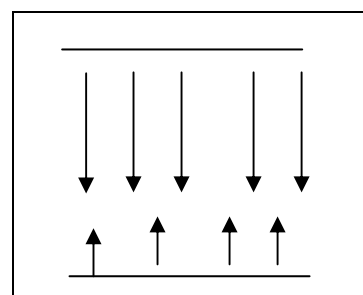
*マットの置き方は班毎によって変わる予定。基本は正方形・長方形
 [フォーメーションのいろいろ]



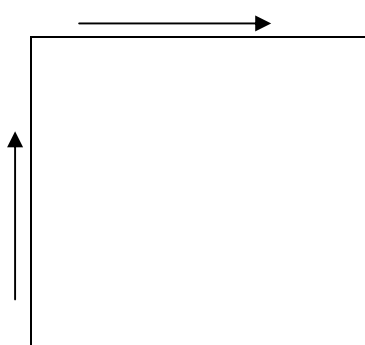
真ん中に向かって対角線



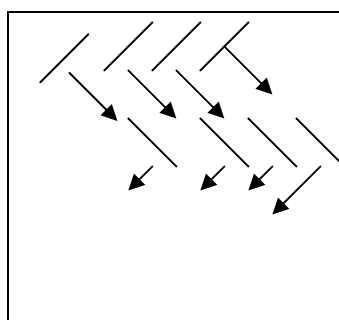
真ん中から外に向かって



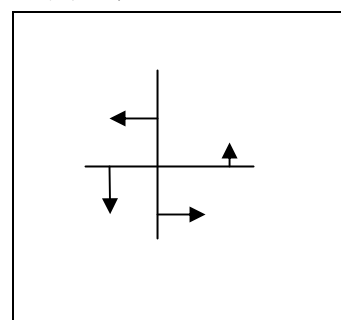
一斉に同じ方向に
真ん中でクロスさせて



マットの周りを使って



ジグザグに



風車のように